

本別町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

概要

本別町は、人口約8千人の過疎地域であり、高齢者の通院等の住民生活に不可欠な公共交通は、旧ふるさと銀河線から転換された民間路線バス及び町営バス等により維持しているが、少子高齢化・人口減に伴う利用者の減少や生活行動パターンに沿った利便性の確保等が課題となっている。

本事業では、国保病院の移転に伴い、市街地区と国保病院を結ぶバスとして、平成12年4月より運行している太陽の丘循環バスについて、通院のみならず、買物等の生活利便性を図るコミュニティバスとしての機能を向上させ、町民が安心して暮らせる交通環境を確保し、また、運行方法等の工夫により将来にわたり持続可能な公共交通サービスを行うことを目指し、地域における公共交通の維持確保に努めるものである。

本別町生活交通ネットワーク計画の目標

- 通院時の利便性を確保しながら、生活面の利便性の向上を図るように運行計画を見直し、コミュニティバスとしての機能を向上させるとともに、将来にわたって町民が安心できる暮らしを支える公共交通を確保する。
- 広報活動の充実を図り、着実な利用の定着化とともに、町民が安心して誰もが利用しやすい環境の整備に努め、利用者増を目指した取り組みを行う。

<具体の目標値>

- ①太陽の丘循環バス利用者数 ⇒平成26年度目標値:年間17,190人(前年度基準で5%増加)
- ②皆が利用できるバスへの認知度 ⇒平成26年度目標値:町民の80%以上
- ③運行にかかる費用(実車走行キロ当たりの経常費用)
⇒平成26年度目標値:平成24年度(346円38銭)と同等かそれ以下

平成26年度事業概要

太陽の丘循環バス

- 南回り 町国保病院～南地区～本別道の駅～町国保病院
- 北回り 町国保病院～北地区～本別道の駅～町国保病院
- 直行便 町国保病院～活性化センター～本別道の駅
- 近道便 町国保病院～活性化センター～本別道の駅～(利用者に応じて)南北地区～町国保病院
- 南大回り 町国保病院～南地区～本別道の駅～北地区～町国保病院
- 北大回り 町国保病院～北地区～本別道の駅～南地区～町国保病院

地域公共交通の現況

- ・十勝バス(株)(地域間1路線)
- ・本別浦幌生活維持路線 (地域間1路線)
- ・町営バス(太陽の丘循環バス6路線、へき地患者輸送バス5路線、町有バス7路線)
- ・スクールバス(8路線)

本別町地域公共交通会議開催状況

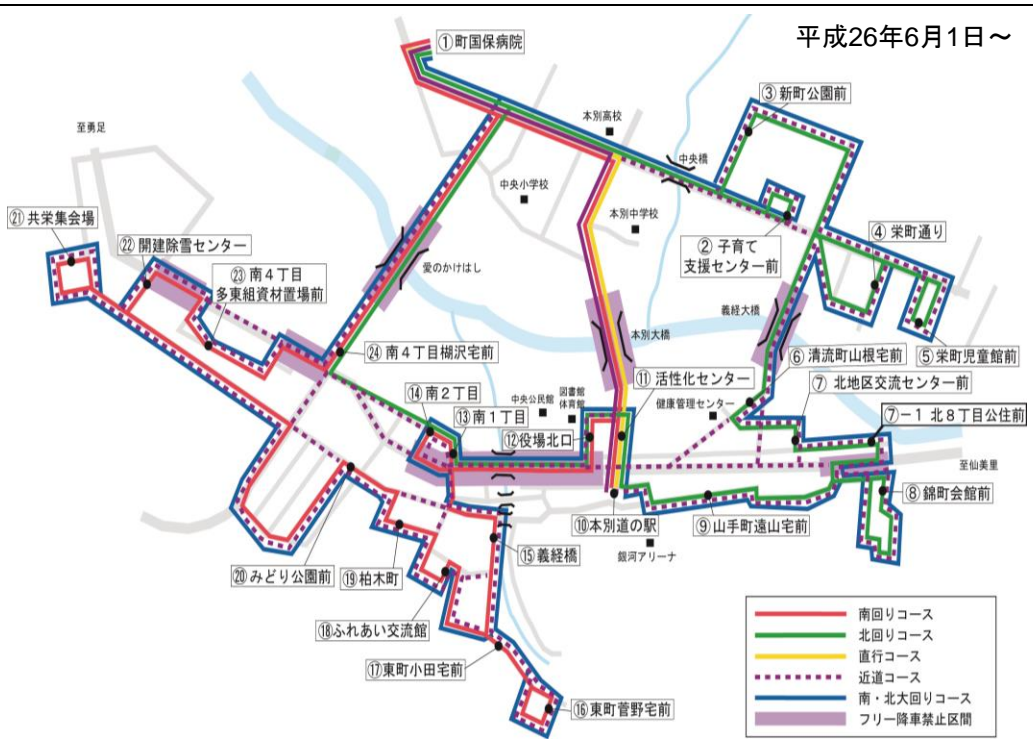
- 平成25年6月24日 (主な協議事項)
 - ・太陽の丘循環バス運行経路の変更および追加について
 - ・平成26年度地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について
- 平成26年2月4日 (主な協議事項)
 - ・太陽の丘循環バスのダイヤ改正について
 - ・平成26年度地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について
- 平成26年6月26日 (主な協議事項)
 - ・太陽の丘循環バス停留所の追加(新設)について
 - ・平成27年度地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について
- 平成26年9月24日 (主な協議事項)
 - ・自家用有償旅客運送の更新登録について
- 平成27年1月20日(書面協議)
 - ・地域公共交通確保維持改善事業 事業評価について

平成26年度事業の実施状況

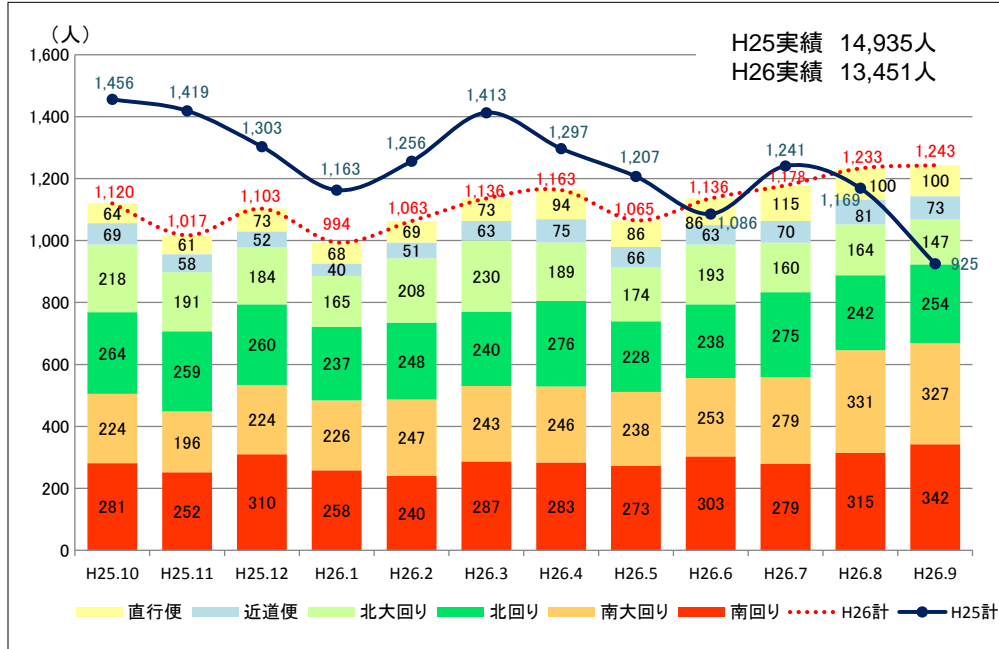
1) プロセス、創意工夫

- ・平成22年度域公共交通活性化・再生総合事業による調査事業において、当循環バスの見直し試験運行を行い、平成24年度より、地域公共交通確保維持事業を活用する。
- ・南回りルートに3か所の停留所を新設(H23.11)。利用者の少ない南、北回りの最終便(第6便)を廃止し、近道便を新設、運行の効率化を図る。(H24.4~)
- ・全路線全便でフリー降車を実施し、利用性の向上を図る。(H24.4~)
- ・運行体制見直しを利用率向上を図るための利用者アンケートを実施(H24.8)
- ・平成24年2月より、シリーズ「支えよう公共交通」として、10回にわたり広報紙に連載し、町内の現状や課題、公共交通の必要性・大切さなどPRする広報活動を展開。
- ・平成25年9月、大幅な運行形態の見直し(①南・北回りコースの2路線を逆回り②南・北コースに大回り便を新設)
- ・主な利用者である国保病院通院者の診療後の待ち時間の短縮及び本別道の駅等での乗り継ぎ時間の短縮を図るため、直行便1便を増便するとともに、運行ダイヤの見直しを行う(H26.4~)

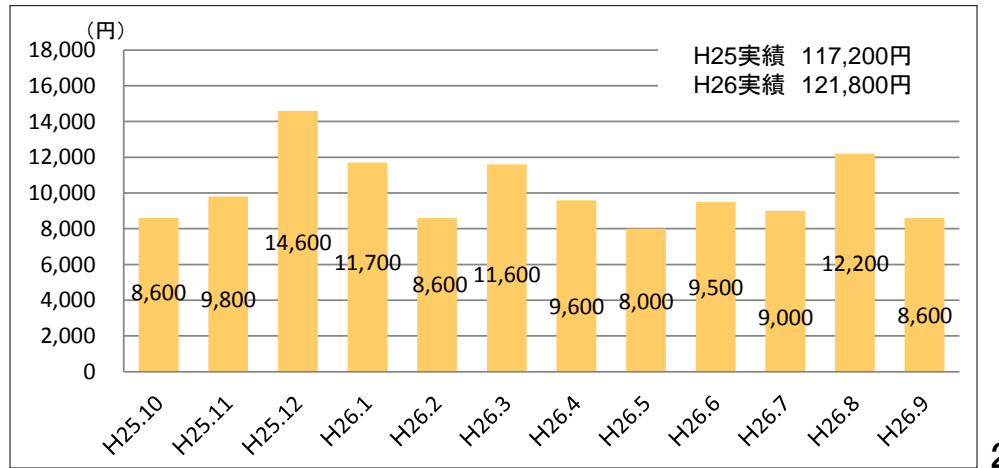
2) 運行ルート



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施されている。

6) 目標・効果達成状況

○町国保病院診療者数の減少と町内(市街地地区)での内科医院開業の影響等により、利用者数は年間目標17,190人に対し、13,451人であった。

○皆が利用できるバスへの認知度については、潜在的利用ニーズの把握とあわせH25.11にアンケートを実施、78.5%が「知っている」との回答であった。H22.11に実施したアンケートでは、「知っている」との回答が62.7%であったのに対し、今回は15.8ポイント上昇の結果となった。

○運行にかかる費用については、大回り便の新設等による走行キロ数の伸びにより、目標346円38銭/キロに対し、269円08銭であった。

7) 事業の今後の改善点

○平成26年度実績において前年比9.9%の利用者数減となったが、H26.4の運行ダイヤ見直し以降利用者は増加傾向にあり、中心市街地へ「ひと」を集める運行ルートが定着してきている。

(利用実績)

- ・H26.10 1,416人
- ・H26.11 1,291人
- ・H26.12 1,471人

○午後の時間帯における中心市街地から帰宅時の運行形態の見直しを検討するとともに、商工業者を含む地域内における多様な連携により、更なる定着と利用者増に向けた取り組みの検討をする。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)